



岡村病院  
院内報

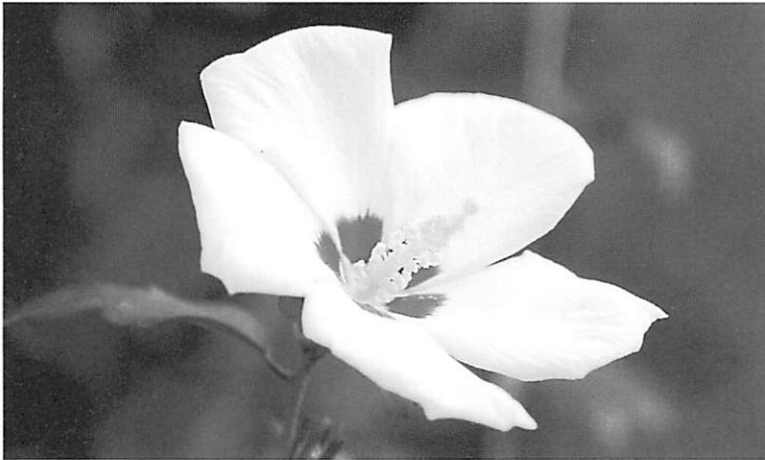
# 歩 (あゆみ)

第 50 号

発行 岡村病院  
編集 歩(あゆみ)  
編集委員会  
平成19年8月1日

## 岡村病院 基本理念

私たちは、患者様本位を第一に考え  
高度な専門医療技術をもって  
地域社会に貢献することを目指します。



木槿（むくげ）の花：アオイ科の落葉低木でインド、中国の原産。花は朝開き、夜しぼみ、人の栄華のはかなさにたとえられます。

高松内科クリニック 院長 高松 和永先生 写

今月のことば

## 明るい笑顔と、やさしい言葉

朝、散歩の途中で、登校中の小学2・3年生位の男の子に出会いました。

私はいつもの癖で、「お早う」と言って声をかけました。するとその男の子はふり向いて明るい顔で「お早うございます。」と言いました。そんな時は、たいていの子は黙って足早に行ってしまうか、「おはよう」と言ってくれるのが普通でしたが、その子はこちらを向いて明るい顔で「お早うございます」と言ってくれたので、私も明るい気持ちになり、うれしくなりました。

ちょっとした朝の挨拶の言葉、それが相手に案

外影響を与えるものだと思います。

私共は毎日、責任のある仕事を忙しくやっていると、つい笑顔もやさしい言葉も忘れがちになります。しかし、いつでも明るい顔を忘れず、やさしい言葉をかけ合うように心がけましょう。患者様に対しては尚更です。

明るい笑顔とやさしい言葉は、自分にも元気を与えますし、周囲をも明るくします。

明るい笑顔とやさしい言葉をいつも忘れないように。

## 「涙の止まる薬」

高松内科クリニック 院長 高松 和永



町医者生活を始めて、12年目になりますが、時折、びっくりするような事を患者さんから言われることがあります。約5年前、Mさんから突然、「涙の止まる薬を下さい。」と言われてびっくりしたことがあります。Mさんは、70歳代の女性で、ご主人を急に亡くされてから、いつも仏壇の前に座って泣いているとのことでした。戦後、ご主人と二人で会社を興されて一生懸命働いてきたようです。ご主人は、心臓が悪くて精密検査の必要を言われていた直後のことで、朝、寝室で倒れて、Mさんが救急車を呼んで、病院に運びましたが、もう亡くなられていたようです。

私は、Mさんから「涙の止まる薬」を下さいと言われてから、「涙の止まる薬」は何であろうかとしばらく考えていました。夫婦が二人で頑張り、お子さん達が幼く可愛かった頃の楽しい思い出が浮かび上がってくる薬なのか、天国でご主人が既に亡くなられている親しい友人やご主人の両親などと笑顔で楽しく暮らしている姿がみえる薬なのか、そんな他愛のないことを考えていました。時が経つに連れて少しずつお元気になられたので、時間が「涙を止める薬」なのだと思いついて納得していました。おおよそ1年前でしょうか、Mさんがお孫さんと思われる3歳くらいの女の子と手をつないで明るい笑顔で歩いているところを見かけました。その時、ふと、お孫さんの生きる力が、Mさんに生きる力を与えているのではないかと感じました。

昨年8月、KさんがMさんと同じように「涙の止まる薬」を下さいと言ってきました。KさんもMさんと同じ70歳代の女性ですが、外来受診の直前に、今まで大きな病気もなく、とても元気に暮らしていたご主人が階段から落ちて脳外傷で亡くなったとのことでした。大きな音がしたので、階段のところへ行ってみると、頭から血を流して、ご主人が倒れていて、救急車を呼び、日赤病院へ

運ばれたが、どうもいけなかったようです。外来でこのようなことを涙ながらに言った後に「涙の止まる薬」を下さいと言いました。私は、Mさんのことでもありましたので「日日薬（ひにちぐすり）」ですよ。時間が涙を止めてくれますよ。今は、泣けるだけ泣いてみたらどうですか。」と言いました。精神的に不安定な時期もあったようですが、時間とともに少しずつ落ち着いてきました。先だっこのこと、「千の風になって」のCDを聞いたらと家族に勧められていますが、まだ、聞いていませんとのことでした。「千の風になって」は、昨年の紅白歌合戦で歌われて、よく知られるようになってきました。ニューヨークの9/11テロの際に亡くなられた消防士の娘さんが慰霊祭の時にこの詩を読み、また、ロンドンのテロで亡くなられた遺族の方がこの詩を読み、世界的にも愛されている詩です。誰が作ったのかは不明ですが、日本語訳は、岩井 満さんが行い、詩に曲をつけています。亡くなった人は、お墓の下で眠っているのではなく、千の風になって大空を吹き渡っており、残された家族をいつまでも見守っているという内容です。日本古来の神道に近い非常に東洋的な考え方で日本人には、とても受け入れやすいように思います。Kさんに是非「千の風になって」を聞いてみたらと勧めています。

「涙を止める薬」、つまり非常に大きな悲しみを受けた人を癒す薬は、普段は余り意識することのない時間、自分のDNAが次世代にも生き続けているという喜び、亡くなった人はいつもそばにいて見守ってくれているのだという気持ちなどでないかと感じます。

患者さんの持っている大きな悲しみや苦しみに対して、医師として十分なことは出来ていないと思いますが、日常の診療を通して、患者さんの悲しみや苦しみが少しでも軽くなればと考えている町医者生活の日々です。

## 内視鏡(胃カメラ)を受けてみませんか?

— 鼻から内視鏡検査ができます。 — 消化器内科医長 植村 信隆



「胃の調子が悪い…から検査をしないといけない。けれど内視鏡(胃カメラ)はつらいと聞くし…」

と二の足を踏んでおられる方がいると思います。確かに内視鏡検査が始まって数十年、昔の硬い太い内視鏡で検査を受けた方にはつらい思い出が多いかもしれません。日本で開発がすすんだ内視鏡はバリウムを使った透視に代わり消化管検査の柱となりました。

光学、電子技術の進歩で以前と違い内視鏡は細く柔らかくなり今では「ハイビジョン」といわれるくらい細かく見えるものもできています。

とは言っても「ゲーゲー言いそうだ」「おえっとなる」などいまだに検査前から恐怖で顔が引きつっている方も多いです。

このたび最近テレビ番組でも紹介されるようになった鼻の穴から入れる内視鏡(経鼻内視鏡)が岡村病院でもできるようになります。今までの内視鏡に比べ3割ほど細くなり、のどを通るときも「おえっ」となりにくくなっています。

検査前に鼻の粘膜を収縮させる薬と麻酔薬を鼻の中に塗布して、できるだけ刺激の少ないように

準備をします。鼻の中がしびれたら鼻の穴から内視鏡を入れ食道・胃・十二指腸と観察するのは今までと同じです。

今までと異なり検査をしながら声を出すこともできますし、むせ込みも少なくなります。

他のクリニックの統計では経鼻内視鏡を受けた方は次からも鼻からの内視鏡検査を希望されることがかなり多いようです。

経鼻内視鏡はこのように利点も多いのですが、少し欠点もあります。カメラが細いため出血をとめたり、ポリープを取ったりという治療ができないこと。また今までのカメラと違い、明るく見える範囲が狭いため検査時間が少し余分にかかることなどがあります。ですから今までの検査でそれほどつらくない方は従来の内視鏡検査が良いかもしれません。

とは言っても、緊張しやすい方、タバコを吸う方など(禁煙が第一ですが)のどの敏感な方には大変楽になっていますので、今まで内視鏡検査を避けていた方には特に経鼻内視鏡をおすすめします。

### 患者さまからのお便り

## 「音楽は天からの贈りもの」

和田 栄子

私には病床暮らし中、決まって思い出す「特別な日」というのがあります。名付けて「二大記念日」としています。

その一、八月二十日は「サルコイドーシス記念日」で、二ヶ月半続きの入院から解放された日です。解放といっても難病指定の厄介な病気なので、闘病十一年目進行中です。

二つ目は、「進行性胃癌記念日」で二月一日。全摘の手術を受けて六年が過ぎました。あれからずっと一日五回食です。体に食べ物を入れることがこんなにめんどろな事かと、未だに思い知

らされています。

その間、貯えのきかない体には抵抗力がなく、発熱しては肺炎をおこし、入退院のくりかえしをしてきました。ベッドでは主に、本を読む、音楽を聴くことで時間を送っていくしかないので。けれど一年前の入院の時、忘れられないことがおこったのです。

例によってCDのスイッチを入れたその時ひびいてきた音の変わりように一瞬とまどってしまいました。それまでずっとずうっと病床で聴く音楽は、どれもけだるく、美しく、重く、悲愴感すら心地


良いひびきとして聴きいていたのですが、その時の一瞬の変わり目を境として、心をとらえた音は、思いこみもごまかしもない「本当の音楽」でした。

「指揮棒を振る時、はっきりと違うひびきが上から降りてくることがあるが、あれは天からの贈りものである。」と言う演奏家の話、「時々、シャッター以前の、啓示としか思えない我が腕をこえた映像があり、それは天からの贈りものとしか考えられない。」と言う巨匠の演奏中の姿を専門に撮る写真家の話など、異口同音の経験談を思い出しました。一年前のあの時はまさに「音楽は天からの贈りもの」ということを私なりに実感したのですから、畏敬の念と共に強烈な驚きでもありました。

～「そこはシナイの砂漠。丁度はなぐもりの日。

空の彼方から風に乗ってシャワシャワと響いてくる弦の一群。天中からは一気に降り注ぐ管、打楽器の圧。地平線のさけ目から一筋の光となって伸びてくるフルートの奇しき音、それを追うバイオリンの切り裂くような音ではっと我に返る。周りのオーケストラの音が伴奏役を自在にふるまう。それらはみな『天からの息。』ブルックナーもメンデルスゾーンもただ神の息を預る預言者。ヘブライ語では風のことを『ルアッハ』というそうなの。それは同時に息であり霊なる風であると記してあった。命を繋ぐ風は音楽となって天から贈られてきたのであった。」～

我が耳に伝わってきたあのひびきはまぎれもなくそういうことだったのかと信じております。



## 患者さまからのお便り 「一言お礼を」

秋田 稔

私は5年前、心臓に不安を感じ、知人の紹介で岡村病院を受診しました。

レントゲン、エコー、心電図など色々検査をして貰いました。検査の結果は特に異常はないという事でしたが、その時、院長先生はじめ職員の皆さんが大変親切にして下さり、特に院長先生が検査の各部屋までおいで下さった事に感銘しました。

一昨年（平成17年）11月9日早朝、突然心臓が痛くなって急いで病院にかけつけ、検査の結果、心筋梗塞という事で直ちに手術を受けました。手術はステントを入れる手術で2時間位かかったと

思いますが、無事に終り、そのあと24日間入院、痛みも無くなり、12月はじめ退院しました。入院中も大変お世話になりました。

退院後は月1回通院、その間、手術後4か月と6か月に検査をして貰いましたが、今は格別異常はなく、2か月に1回通院しています。

「無理をしない様に」と言われていますが、今は安心して日常生活にもどっています。

岡村病院を紹介して貰って、よかったと思ひ感謝しています。

病院のご繁栄をお祈り申し上げます。

## 「花に恋して」

3F病棟課長 森下 勝美

昨今は空前のガーデニングブームと言われていますが、私のガーデニング歴は約30年になります。梶原町に生まれ、自然に囲まれて育ったことと先祖代々の植物好きがそのルーツであるかもしれません。小学校低学年の頃、家の庭から向かいの山

を眺めていて雑木林の中に白い花を咲かせた大木を見つけた時のことは鮮明に記憶しています。獣道すらない雑木林を一心に駆け登ってその木の根元に立ち、青空の中にそびえる花木を見上げた時の感動は今でも忘れることができません。もっと



もその木が「こぶし」であると知ったのはずいぶん後のことでした。

現在、ランだけでも200鉢以上、花木・ばら・ペゴニア・草花・観葉植物など買い集めるため、庭も家の中もジャングル状態です。趣味が高じて庭園管理士と実務園芸士の認定を取得してしまいました。そこで、「花が咲くまで面倒を見て欲しい」と枯死寸前のミニカトレアを預けて行く友人もいて、3年間何とか再生しようと頑張った事もありました。仕事と子育て・老親の介護に追われた辛い時期もありましたが、縮小はしても趣味の園芸を続けることで乗り切ることが出来たように思います。子育てに食育という言葉がありますが、私の場合は植育により、看護という仕事、育児、介護のあり

方を教えられたように思います。増え続ける植物に渋い顔を見せ、花が咲いた時だけ手元において眺めていた主人も花鳥風月を愛でる年齢となったのかこの頃は土作りや庭木の刈り込みなどを手伝ってくれるようになりました。

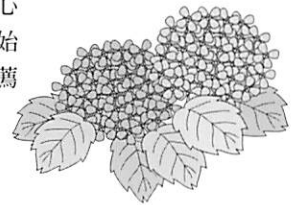
それにしても地球温暖化の影響が身近に迫っていることを感じるこのごろです。昨冬は非耐寒性植物のインパチエンスが庭で冬越し、花を咲かせています。動植物の生態系に変化が生じていることの証明であり、喜んでいる場合ではありません。園芸を通じてかけがえの無い地球とそこに生きる生物を後世に護り伝えていくことの大切さを痛感するこの頃です。

## 「夏の散歩」

医事課 福田 奈那

朝の5時。私の一日はここから始まります。毎朝、愛犬のヨークシャーテリアがきっちりこの時間に散歩に行こうと起こしに来てくれるからです。布団の中でしばらくぐずぐずと過ごした後、彼と一緒に太陽の光が差し始めて明るくなった空の下に走り出ていきます。少し前までは春の匂いを含んだ穏やかな空気が流れる中での散歩でしたが、最近は気温もぐっと上がり、半袖で風を切っても少しも寒さを感じる事がなくなりました。散歩をしていると空の色が時間と共に様々に変わっていくところや、草木が青々と繁り、その葉っぱに露をのせてきらきら光っているところ、立ち葵が鮮やかな花をつけているところや紫陽花がいろいろな色で花を咲かせているところが見られたりして嬉しくなります。また、同じように散歩を

している方とすれ違う際にする朝の挨拶で心がほんわか暖かくなったりもします。早起きは三文の得と言いますが全くその通りだと日々実感するとともに、早起きに散歩がプラスされているので倍の6文ぐらいは得をしているかもしれないな、と思っています。今この文章を書いているときは梅雨真っ只中ですが、皆さんの目に触れる頃には梅雨も明けて本格的な夏がやって来ているのではないかと思います。皆さんも夏風の中の散歩を楽しまれてはいかがでしょうか。毎日小さな発見がたくさんあり、身体も心もすっきりと一日を始めることができお薦めです。



## 「誕生日」

秘書 大利 文乃

先日、誕生日を迎え、家族に祝ってもらいました。友人たちからもこの先に訪れる幸福を祈るといような内容のメールをもらいました。

以前、誕生日とは自分の誕生を祝うということだけでなく、母の日でもあるということを知った

ことがあります。一般的に母の日は毎年5月の第2日曜日ですが、誕生日は自分が生まれた日、つまり母親が出産の苦しみを耐え、自分をこの世に送り出してくれた日だからそのことに感謝する母の日だということだそうです。確かに、その日が

なければ今の私たちはいませんし、未来もありません。私にも娘がいますが、確かに娘の誕生日には未来への期待と無事に生まれ健康に育てくれたことに感謝し、生まれたその日のことを思い出します。私自身はというと、今年の誕生日に母に感謝の言葉を伝えてないままです。

最近の報道では、家族の間の問題が深刻化し、痛ましい結果を引き起こしている事件が多いように見受けられます。せつかく両親から授かった一番の贈り物である生を感じられないというのはと

ても悲しいことです。

普段は自分の生についてあまり意識することはありませんが、誕生日には生まれたその日のことを思い出してみると、また違う気持ちで過ごせるかもしれません。私もこれを書きながら、改めて両親に感謝しようと思いました。(心の中での感謝ですが…)



## 職場体験実習の受け入れを行いました

城北中生職場体験実習

7月11日～13日の3日間、今年も、城北中学校の生徒さん2名が職場体験実習に来られました。院内の各部署を見て回りながら説明を受けたり、また病棟での食事介助や看護業務の見学など、さまざまなことを体験していただきました。

慣れないところで緊張しながらの実習だったことと思いますが、それでも沢山のことを吸収しよう

とする、可愛い「未来の看護師」さん達の姿に、入院中の患者さま達は、「なんだか孫みたいだ」などと言いながら目を細められ、コミュニケーションをとられていた部分もあったようです。

職場体験実習後、感想文を寄せていただきましたので、次に紹介させていただきます。

## 「岡村病院での職場体験実習を経験して」

西岡 真弥



私は、この職場体験で沢山のことを学びました。仕事をするというは大変なことだと思ったし、看護師という仕事は人の命を預かっているから、沢山の神経を使うし、状況を見て正しい判断をしないといけないから状況判断力も必要だと思いま

した。私が凄いと思ったことは、どんな人がいてもその一人一人に合った対応をしたり、患者さんと沢山コミュニケーションをとって不安を取り除いてあげたりしていたことです。そういう病院が、患者さんにとって安心できるような病院だと思います。特に大変な治療を受けている患者さんは沢山不安を抱えていると思うから、そんな人たちに安心感を与えてあげられるような心を養っていきたいと思いました。

二日目、三日目と病棟のほうで実習をさせてもらいました。リハビリのために毎朝頑張っている人や、しんどくても看護師さんと頑張って身体を治そうとしている患者さんたちが沢山いました。私が看護師さんと一緒に見学に行くと、患者さんが「看護師さんになるにはどうしたらいいか」とか自分の病気のことをいろいろ話してくれたり、

また岡村病院の看護師さんたちのことを話してくれたりもして、とても勉強になりました。患者さんとのコミュニケーションから学んだ沢山のことをこれから生きていくうえで活かしていきたいです。患者さんから生きるための活力や勇気、ひとつの

命を大切にすることを教わりました。

これは今の日本人にとって大切なことだと思います。命を無駄にすることなど許さない国を作っていかなければならないと思いました。

## ハワイ大学医学生、日本の臨床現場を体験

6月22日、高知大学医学部と交流のある、ハワイ大学医学部1年次修了生の学生さん3名が「日本の医療制度を学び臨床現場を見学する」という目的で、当院で研修されました。岡村院長の指導のもと、血管造影検査の見学、病棟の回診見学など、短い時間ではありましたが、沢山のことを学んで帰られました。ハワイに帰られてからも、さらなる勉学、研究に励まれ、立派なお医者さんになれることと思います。



## ビアガーデンに行ってきました!



春は「さくら会」。ならば夏はビアガーデンだ! ということで、去る7月20日 ビアガーデンを旭ロイヤルホテルにて行いました。あいにくの小雨模様でしたが65名ほどの参加となり、ビールやサワーはもちろん、ワインやウイスキー、そして屋台風の焼き鳥やラーメンまである出来たての美味しい料理を食べながら、たっぷり2時間ほど会話に花が咲いたひと時となりました。この春入職した新人さんたちも、岡村病院の雰囲気ですっかりなじんできたようです。



● ニューフェイス ●



野中 一由 さん

看護師 (外来)  
趣味：映画鑑賞



松本 優子 さん

准看護師 (3F)  
趣味：読書



よろしくお祈いします。

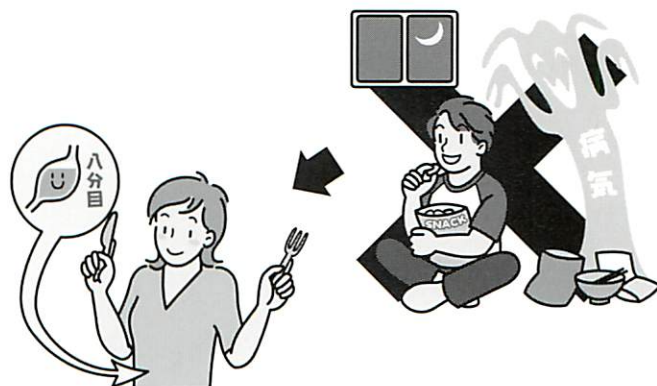
健康講座のご案内

日 時：平成19年8月18日(土) 午後2時より  
場 所：高知グリーン会館 (2階 グリーンホール)  
高知市本町5-6-11 TEL (088)825-2701  
講演内容：「よくわかるおなかの病気  
～おいしく食べてすこやかに～」  
講 師：岡村病院 消化器内科医長 植村信隆先生



本稿3ページにも執筆されている植村先生の講演です。そろそろ夏真っ盛り、冷たいものを飲みすぎたり食べ過ぎたりしておなかの調子が・・・そんな方はいませんか？おなかの病気の知識や新しい検査法、治療までのお話をさせていただき、皆様の健やかな毎日のお役に立てればと思います。

入場無料となっていますので、お誘いあわせの上、ご来館ください。



次回の健康講座は9月15日(土)同会館にて、当院総合内科医長 川村誠医師により「一総合内科から診た生活習慣病としての内臓肥満の話ーあなたが、そしてあなたのご家族が脳卒中・心筋梗塞にならないために」と題して行います。



RKC高知放送 生活情報番組「きんとく」にて当院医師による健康アドバイスをしています。

「ごじでば」がH19.4.6(金)よりリニューアルして放送しています。

**放送時間** 第2・4金曜日 午後5:30～5:45 (病院ホームページで動画配信中)

■ URL : <http://www.okamura-hp.or.jp> ■ E-mail : [info@okamura-hp.or.jp](mailto:info@okamura-hp.or.jp)